

静岡

2016年7月17日

絶景の空撮 富士山望むドローン飛行場

◆高原の牧草地活用し誕生

小型無人飛行機「ドローン」の操縦体験やトレーニングなどに使える静岡県内で初めての飛行場が、富士山西麓の朝霧高原にある食のテーマパーク「あさぎりフードパーク」（富士宮市根原）に誕生した。高原の酪農家が手放した牧草地を活用した。運営するあさぎりフードパーク協同組合は七月下旬の一般開放を予定しており、競技大会の開催などドローンでの地域活性化を目指す。

誕生イベントが六月末にあり、一般社団法人・日本ドローン協会（福岡市）のスタッフがドローンを使って空撮のデモンストレーションをした。高さ数十メートルから望む富士山と酪農地帯がモニターに映り、訪れた人たちが「すごくきれい」と見入っていた。

飛行場はパーク東側のナゴヤドーム一個分に当たる約五ヘクタールで、もとは二軒の酪農家が所有していた。廃業を理由に三年前、協同組合に売却の話があり、パーク内でお茶工房「富士園」を経営する石川由樹さん（49）の名義で取得した。

地域の酪農家向けに牧草の育成を続けてきたが、「ほかに使い道はないか、ずっと考えてきた」と石川さん。静岡市の企画会社「MEIDO」が飛行場を提案した。

企画会社の宿田（しゅくた）雅稔社長（47）は「ドローンが牧草の上を飛ぶだけなので設備投資がいらず、農地転用の必要もない」と語る。

一般開放の前に、日本ドローン協会から公認飛行場のお墨付きを得た。斑尾高原（長野県飯山市）の飛行場などに続き、国内で六カ所目になる。

協会関東支部長の風間真（しん）さん（57）は「牧草地だから落下時に機体の衝撃が少ない。富士山の絶景が楽しめるので空撮の需要は高いはず」とみる。協会が取り組む講習の会場としても活用していく考えだ。ドローンの飛行は東京二十三区などの人口密集地で規制されており、都市部の愛好家たちの誘客が期待できそうだという。

石川さんは「利用者にはフードパークで地元のグルメも味わってほしい。将来的には国際的なドローンのレース大会なども誘致できれば」と期待する。問い合わせは、あさぎりフードパーク＝電0544（29）5101＝へ。

（小佐野慧太）

＜ドローンの規制＞ 建設、輸送業などで市場拡大が期待されながら、近年になって落下や悪用の問題が表面化。2015年12月施行の改正航空法で200グラム以上の機体を対象に、人口集中地区や高さ150メートル以上での飛行は原則禁止になった。日中、目視の範囲で飛行することも求めている。静岡県は一部エリアを除き県営7公園で飛行を禁止している。



富士山を背にドローンを飛行させる日本ドローン協会のスタッフ＝富士宮市のあさぎりフードパークで

ここに行きたい'16夏 ドローン飛行、思う存分に 富士山スカイグラウンド
(静岡県富士宮市)

2016/8/20付 | 日本経済新聞 朝刊

遮るものがない場所でドローン（小型無人機）を思う存分飛ばしたい——。そんな愛好者の願いをかなえるため、今月6日、静岡県富士宮市の富士山麓に専用飛行場「富士山スカイグラウンド」が開業した。

中央自動車道と新東名高速道路のインターチェンジから車で約50分。地元食材を使ったスイーツが人気の「あさぎりフードパーク」の一角で、広さは東京ドームに匹敵する約5万平方メートル。標高約900メートルの朝霧高原は夏でも涼しく、避暑にももってこいだ。



半日2000円、1日3000円で利用できる

甲府市でラジコン店を経営する山田政徳さん（44）は「朝霧は富士山が裾野まで美しく見える撮影の名所。ドローンに積んだ360度カメラで、誰も見たことのない映像を撮りたい」と興奮気味。日本ドローン協会の山梨支部長を務めており、ここで初心者向け講習会を開く計画という。

ドローンを飛ばすのは写真好きの男性が多いが、最近は「ドロンジョ」と呼ばれる女性愛好者も増加中。周囲には観光名所も多く、家族でも楽しめそうだ。

（おわり）